

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：御代田町立やまゆり保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	[取り組み状況] 全体的な計画は保育指針に基づき、園の理念、基本方針、地域の実態、子どもの発達過程等を考慮して作成している。 全体的な計画の下、計画的な取り組みで連続性のある保育内容となるように努めている。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	[取り組み状況] 生活の場として安心して心地よく過ごせるように常に職員が気を配っている。 そして、定期的に環境整備の会議を開き、活動と休息の場を分ける取り組み、園庭の環境についてなどを話し合い、子どもが楽しく安心、安全に生活できるように図っている。 また、特にコロナ禍において衛生管理の徹底に努めている。トイレの数が少ない環境であるが、クラスごとの時間差や行きたい時に行くようにするなどの工夫で補っている。
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	[取り組み状況] 子どもの発達や個人差を把握した上で、一人ひとりを理解し、受容的できめ細かな関わりを基本としている。 そのため、職員間で共通の援助となるように話し合い、対応している。 [検討課題] 理念である「一人ひとりの子どもを大切に」の理解を深め、何げなく言うてしまう不適切な言葉に注意するとともに、保育士間で確認し合える環境が必要と思われる。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>月、週、日の指導計画に基本的な生活習慣を身につける援助が計画され、環境構成、配慮事項について記されている。</p> <p>その上で子ども一人ひとりの発達に合わせ適切な時期を配慮し、また、子どもがやろうとする気持ちを第一として達成感、満足感へ繋げている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>基本的な生活習慣の習得は家庭のリズムに合わせて展開していくことが大切で、保護者と十分に話し合っのを実施を望みたい。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>朝の個々の遊びに向け、保育士がクラスの中に幾つものブースを設け用意し、自ら関わりたくなる環境を整えている。</p> <p>雑木林の探検山にはテントやテーブルが設置され、園庭を含めて発見、感動、感性の豊かな子どもへと育てている。</p> <p>また、コロナ禍で中止となる場合もあるが、毎週一日は以上児が年齢を超えての班を作り、交流を通して人との関わる力を養い、共に成長し合う異年齢保育を実施して効果を上げている。</p>
			⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>利用する子どもの人数を考慮し、0～1歳児室、2歳児室と分けている。どちらの保育室も子どもが安心、安全、心地よく過ごせる環境を心掛け、オムツ交換時には手作りの仕切りを活用し、プライバシーの配慮がみられる。</p> <p>0～1歳児の遊び場は柵により分離化し、同年齢で自由に遊べるよう工夫している。保育士は0歳児には愛情豊かに応答的な関わりで欲求を満たし、気持ちを通わせることを心掛けている。また、1～2歳児には自発的な活動を見守り、自分でしようとする気持ちを大切にしている。</p> <p>保護者とは連絡帳にて家庭での朝食、機嫌、睡眠、排泄等の記載をお願いし、子どもの様子を把握し、保育士は園での一日の姿を細かく報告したり、送迎時での会話を含めて連携に努めている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	[検討課題] 興味や関心へ繋げるものの配置は、ほふくや抱っこ、座る、立つ、歩く、仰向けなどは、子どもの目線に合わせて、天井や壁などの空間を活用した環境づくりで、子どもの感性を育てる更なる取り組みを期待したい。 特に、0歳児室には安全を確保したうえで、探索活動が十分可能となる環境は必要と思われる。
■	41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。					
■	42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。					
■	43 子ども自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。					
■	44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。					
■	45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。					
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■	47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	[取り組み状況] 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を園の生活の中で習得できるよう図り、その目標に向け、年齢別の各指導計画が立てられ実践している。 週一日の異年齢保育を通して、思いやりや他の人との関わりなどを学ぶ機会としている。 また、環境を整備することで、園内で園庭・探検山での遊びの中で豊かな感性、好奇心、思考力などが培われている。 年長になると、行事を自分達で企画、実行したり、子どもの会では皆で話し合ったことを貼り出し、言葉、表現、そして相手の気持ちが分かる取り組みで、主体的な活動が視られる。
■	48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。					
■	49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。					
■	50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。					
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	[取り組み状況] 配慮が必要な子どもには、保健福祉課、心理相談員等の助言を得て、保育士間共有の下、より良い保育となるように図っている。 個別指導計画はクラスの指導計画に合わせた内容で、クラスの仲間と一緒に成長できるように関連づけている。保育士はその子の得意なことを把握し、クラスの中で輝ける場を提供し、自信となるようにしている。 年1回の保護者との懇談、同行受診、同行学校見学の実施など、普段から連携を密として保護者に寄り添っている。 [検討課題] 個別指導計画は保護者の願い、これからの思いを大切に計画とし、その説明をすることで更なる信頼関係となる。また、保護者全体にSDGs等の活用で障がいに対する理解を求める取り組みを期待したい。
■	52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。					
■	53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。					
■	54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。					
■	55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。					
■	56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。					
■	57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。					
□	58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。					

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>[取り組み状況] 長時間保育は1クラスの保育室を使い皆が一緒に過ごしている。自然と大きな子どもが小さな子どもの世話や相手をしている様子がみられる。夕食を配慮しておやつを提供はないが、水分補給を心掛け、担当保育士と延長保育士は延長保育引き継ぎ簿にて保護者へ伝える情報、伝言を依頼している。</p> <p>[検討課題] 子どもの日中の活動、生活の内容を延長保育士に伝えることで、子どもの心身の状態が把握でき、延長保育の内容が更に充実して提供しやすいと感じる。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>[取り組み状況] 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識して保育内容を実践し、小学校以降の生活へ繋がるよう取り組んでいる。 学校との連携は保小連絡会にて情報を提供しての意見交換、子ども達は体験入学や運動会参加等で学校を知る機会としている。5才児フォロー事業として、学校生活に不安を持つ保護者に対して関係機関関係者が集まりサポートを行っている。</p> <p>[検討課題] 就学に向けて、お昼寝の終了、椅子に座っている時間の確保、自分の名前を読める、交通ルール等、必要なことを計画に入れて取り組むことは必要と思われる。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 □ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。 	<p>[取り組み状況] 保護者からアセスメントにて既往症や予防接種、検診等、子どもの健康に関する全ての情報を得るとともに、園のしおりに感染症について詳しく説明をしている。 その感染症防止対策として体温チェック、手洗いの実施、玩具等の消毒を徹底している。 SIDS事故防止の為、睡眠時のチェック表にて5分毎に実施している。</p> <p>[検討課題] 乳幼児突然死症候群は家庭においても発生することを踏まえ、保護者に向けての情報の提供、また、発熱の際、怪我、嘔吐、熱中症、虫刺され等の初期処置についての知識、技術の獲得も必要であろう。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>[取り組み状況] 年2回の内科検診、歯科検診を実施し、その結果を保護者に知らせている。また、半年に1回は歯科指導員による歯の磨き方、染め出し等で指導を実施し、保育士も機会毎に絵本などで歯磨きの大切さを教えている。</p> <p>[検討課題] 健康診断における痩せ、肥満、歯科検診における虫歯などの対策は、提供する保育に位置付けることも必要と思われる。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 □ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 □ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>[取り組み状況] アレルギー児対応マニュアルの下、保護者と調理担当者で面談し、医師の指示書にて共有を図っている。毎月の献立内容を双方で除去、食物の確認を行い、当日は何人もの目でチェックをして提供している。</p> <p>[検討課題] あってはならない事であるが、アレルギー初期症状、アナフィラキシー症状等についての知識、初期手当の技術を学び、直ぐに対応できるようにしたり、他の子ども達にも理解を求めることは大切であろう。</p>
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>[取り組み状況] 食育と食に関する取り組みを各指導計画に位置づけ、食を営む力が身につくように図っている。未満児については朝食の内容を記載してもらい、昼食の参考にし、園での食事について保護者に伝えている。</p> <p>献立のサンプルケースには、利用初期段階で平均的なご飯の量を掲示し参考にしてもらっている。また、食事環境の衛生面にも気を配り、現在は飛沫防止板での配慮を行っている。</p> <p>自分達で育てた野菜の生長と収穫、それを食べることで命の育ちと命の大切さを身につけている。特に、広い園庭と探検山の環境を最大限に活用し、外での給食、おにぎり持参での散歩など、食事スタイルの工夫で更に楽しみな食の体験の工夫がなされている。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>月1回のハッピーランチは以上児クラスのまわり順で、子どもたちが話し合いで献立を決め、献立表にも載せないサプライズとしている。この取り組みは子ども達の食への関心とワクワク感の機会として好評である。また、地元の旬な農産物を使っての季節感、伝統食、行事食の提供で食の文化を知ることができている。</p> <p>毎月開催の給食部会は調理担当者と栄養士が今月の昼食、おやつについて好評献立、献立の改善・工夫について話し合い、次の献立に活かすことで、保護者アンケートでもわかる通り、子ども、保護者の満足度は高い。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保護者との連携は連絡帳をとおして、日々の情報交換と園での子どもの様子を詳しく記している。コロナ禍で保護者が園と関わる機会が制限されるなか、ドキュメンテーションを通して、各クラスでの日々の子どもの姿をカラー写真入りで保護者に伝えている。</p> <p>また、クラスだよりの充実を図り、保育内容や子どもの成長を知らせている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>園だよりに園の方針、クラスごとの月間指導計画、保育の意図、理念等について記載するなど、連絡、周知し、保護者により理解してもらうことで更に相互の信頼、理解が図られると思われる。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保護者からの相談はいつでも応じられるように努め、時間も保護者に合わせる等、柔軟な対応を心掛けている。相談を受けた場合は主任や園長に報告し、適切な支援となるようにしている。</p> <p>また、行政の関係機関でも相談ができることも玄関にパンフレットを置き、知らせている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>相談に応じる体制について、園のしおりや園だより等に記載することで、更に言いやすい環境を整えることを期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 □ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>日頃から虐待等の兆候を見逃さないように職員間で注意を払っている。</p> <p>疑いがある場合は福祉課経由で児童相談所に繋げ、月1回の報告書の提出で情報を共有し、継続的な対応を図っている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>児童虐待等の内容は様々であり、マニュアルを整備し、また、心的トラウマのチェックリスト等を活用し、職員が意識を高め、早期発見、早期対応となることを期待したい。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保育士は月間、週の指導計画について、計画のねらい、環境構成、配慮事項が適切であったかの振り返りと自己評価を行っている。</p> <p>また、主任保育士が評価についてアドバイスなども記載して、保育士の努力、工夫を認めているので、モチベーションの維持、向上にもつながっている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>年度末の保育士の振り返り表、年間指導計画や月案の自己評価など、それらを次のステップへ活用する職員間での共有化を図る取り組みの機会を増やしたり、対話型の園内研修としたりするなど、継続的・組織的に次の保育への改善を図ることで、園全体の保育の質の向上につながると考えたい。</p>